

# 相可高新聞かわら版No103

平成25年9月13日  
相可高校新聞部  
多気郡多気町  
相可50番地  
TEL 0598-38-2811

全2面  
長崎文  
特集  
報告

## 祝 吹奏楽金賞受賞!



↑コンクール演奏の様子

8月6日(火) 中部日本吹奏楽コンクール三重県大会で、吹奏楽部が金賞・県代表・総合優勝を受賞。さらに、8月10日(土)三重県吹奏楽コンクールにおいて銀賞を受賞した。そして10月12日(土)中部日本吹奏楽コンクール本大会への出場が決定している。部長の辻紗也加さんは「今回は連続優勝のプレッシャーが大きかったです。今年は2、3年生が少ないので1年生の頑張りが大きかったです。今後もマーチングや全国大会などがあって両立が難しいですが頑張っていきたいです。」と語った。(N.T)



## 祝 サッカ一部 松紀地区 優勝!

7月24日(水)サッカー選抜大会松紀地区予選で、みごと地区1位、その後、県大会に出場、県でベスト16の成績を収めた。地区大会では1回戦、対松阪工業(2-2 PK4-2)2回戦、対木本(4-1)で勝利、県大会では神戸高校に1-0で惜敗した。県大会出場は相可サッカー部初の快挙である。キャプテンの北村龍生くんは「今回は個の力をつけて臨んだ大会だったので、次の大会ではチームワークを大切にして結果を残せるように頑張ります。」と語った。(H.O)



←相可イレブン

## 身振り、手振り調理実習



←手元を熱心に  
見つめる様子

### 食物調理科 ～葛飾ろう学校と実習～

7月26日(金)食物調理科に東京都立葛飾ろう学校の生産システム類型食物系の生徒6名が来校し、まごの店の仕込みの実習を一緒に行った。タコのたたき方を教えてもらう生徒達は、たたく音が聞こえない。だからたたきすぎたり弱かったりすることがあると、引率された岡部敏枝先生が教えてくれた。見ているだけでは分かりづらいことがたくさんあるという。しかし、「将来は健常者の中で働かなければならないので、同年代の人達と交流しながら学んでほしい。」と岡部先生は語った。3Hの安里くんは「口とジェスチャーと表情で伝えると相手もわかってくれました。」と話した。お互い笑顔を見せながら作業をしていた。(H.O)

## 京都人権フィールドワーク



↑参加者の皆さん

7月28日(日)人権教育フィールドワークが行われ、人権委員会を中心とした生徒21名のほか、保護者、教員の40名が参加した。国際平和ミュージアムでは、過去の戦争の歴史から現代の紛争の実態、貧困・飢餓など、平和をめぐる今日の様々な課題について学ぶことができた。その後龍安寺に移動した。龍安寺は15個の石を使った枯山水式庭園として有名である。その中の石の裏にはこの庭を造り出し、被差別の中を生き抜いてきた二人の「庭づくり」の名前が刻まれている。行きのバスの中で「音次郎の庭」というDVDを鑑賞してからの訪問であったので、世界に誇ることができる文化は、身分的に差別をされた人々が担い手となり完成させたものであるということも学ぶことができた。参加した3Dの岡野佳苗さん、青野百花さんは「このフィールドワークを通して戦争の悲惨さを改めて実感することができた」と、また、3Gの米田駿君、山村隆星君は「世界平和と部落差別のことを学ぶことができた。ここで学んだことを、いろんな人に伝えて、よりよい世界にしていきたい」と参加しての感想を述べてくれた。(K.M)

→龍安寺  
方丈庭園



# 高校生国際料理コンクール開催迫る



来る9月23日(月)から28日(土)まで、高校生国際料理コンクール2013が本校で開催される。このコンテストに食物調理科3年生の岡本なつ美さんと佐野竜也君の他、台湾、ニュージーランド、ニューカレドニア、オーストラリア、タヒチの6カ国9チーム18人の高校生が出場する。先日、世界大会に向けて緊張感でピリピリしている調理室を訪ね、村林先生と岡本さん、佐野君にお話を伺った。(H.O)、(N.T)



### 村林先生のコメント

Q. 国際料理コンクールとはどんな大会ですか?  
A. このコンテストは今年で9回目を迎える料理コンクールであり、相可高校の出場は7回目。プロに匹敵する料理技術を持っているいろんな国の高校生が、料理の腕を振るい、世界の頂点を競い合う料理の世界大会である。テーマは牛肉を使ったフランス料理であり、選手はたくさんのアイデアを詰め込んだ料理を考えている。



Q. どのように審査するのですか?  
A. 「盛りつけ」「味」「仕事の綺麗さ」「技術」を基準として1時間で4人分(1人分\$16=1,600円程度)の料理を作る。審査員の国籍によって味付けが変わるが、今年の審査員は日本人3人、オーストラリア人3人であるので、今年はやや濃いめの塩味がポイントとなる。100点満点で、減点法で採点される。金賞は100~90点、銀賞は90~80点、銅賞は80点以下となっている。

Q. 今までの成績は?  
A. 金メダル3回、銀メダル2回、銅メダル1回である。金メダル、総合優勝はしたことがないので、今年は狙っている。

参加校一覧(6カ国9チーム) →

### 岡本さんのコメント

Q. 意気込みを教えてください。  
A. 先輩方が金賞を続けているので、今年は自分たちが金メダル、総合優勝を取りたいです。  
Q. 調理で気をつけていることはどのようなことですか?  
A. リゾットを作るときの火加減やチーズの濃さ、塩味に気をつけて一気にインパクトを付けるところです。



### 佐野君のコメント

Q. 意気込みを教えてください。  
A. 地元開催ということで、絶対に金メダル、総合優勝を取りたいです。  
Q. 調理で苦労したことは、どのようなことですか?  
A. フランス料理になれていないので、肉やソースの塩加減がなかなか決められなかったことです。



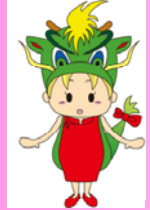
今回出品する料理  
～プロバンス風テンドーロインステーキ、  
グレービーを添えて～

相可高等学校	日本(多気町)
開平餐飲學校	台湾(台北市)
サウスランド男子高校	ニュージーランド
ヨハネ23世ホスピタリティー専門学校	ニュージーランド
オーギュスト・エスコフィホスピタリティー専門学校	ニュージーランド
クイーンズランド州支部代表	オーストラリア
キャンベラ支部代表	オーストラリア
オーストラリア全国代表選手団	オーストラリア
タヒチホスピタリティー専門学校	タヒチ



長崎県長崎市 異国情緒を感じる町

全国総文  
長崎



↑美龍(めいろん)

「集え長崎 帆を張れ 文化の船に」というテーマで第37回長崎潮風総文祭が7月31日～8月2日まで長崎県の各地で開催された。新聞部門の会場となった長崎市は異国情緒を感じる町だった。

長崎ってどんなまち

長崎の名物と言えばチャンポンとカステラ。観光に訪れた人は「とりえずチャンポンを食べる。」という義務感に苛まれるのではないのでしょうか。また、長崎は食べ物の名物だけでなく、平和公園や原爆資料館、ハウステンボスなど、観光客が訪れる場所がたくさんあります。新聞部門では班に分かれて取材に出かけました。そこで学んだことを紹介します。2年生は11月6日～8日の3日間、長崎に修学旅行に行くので、参考にになればと思います。(K.H)

魅力あふれる中華街

↓中華街に関する資料を展示している「さるく展示室」



われ、入り口となる場所には番所が設けられ、かなり厳重に監視が行われていた。唐人屋敷の造成直後から唐人や長崎の人々が唐人たちを市内に宿泊させることを望んだが叶わず、居住が法的に許可されたのは明治4年になってからだった。その後唐人屋敷は開国と共に撤廃され、179年の歴史を閉じた。」(K.H)

長崎市にある中華街では、中国からの伝統ある建物がたくさん並んでいる。私たちは、江戸時代に中国人が暮らしていた唐人屋敷と中華街を訪ねた。それらを語ってくれたのは、酒井修二郎さん。酒井さんは地元を大事に思う気持ちと、私たちには分からない昔の話をしてくれた。「1635年に幕府はそれまで九州各地で行われていた中国貿易を制限し、長崎だけで行うように定めた。そのため、九州各地に散住していた中国人たちは長崎に移り住み、その結果、中国貿易の中心として発展した。唐人たちが住んでいた唐人屋敷は高い堀で囲まれており、さらにその周りは水堀やカラ堀などで覆



↑華やかな装飾が目を引く南門

南山手ロマンチックエリア



↑グラバー園

グラバー園は、貿易商であり、グラバー商会を設立したトーマス・ブレーク・グラバーが住んでいた日本最古の木造洋風建築。三菱重工業長崎造船所を見下ろす位置にあったため1939年に戦艦武蔵の建造を秘匿する目的で買収され、一旦所有が三菱重工業へと移ったが、その後長崎市へ寄贈された。グラバーの妻ツルの婦人部屋の廊下の天井には、屋根裏部屋(隠し部屋)の入り口がある。グラバーは倒幕派の薩摩藩、長州藩などに肩入れし、国禁を犯し自分の船で薩摩の若者をイギリスに密航させたり、長州へ大量の武器を売っていた。グラバー邸にはそんな幕末の志士たちが出入りし、密談を重ねていた。(S.M)



←願いが叶う！ハートストーン

三菱重工造船所に迫る

8月1日、三菱史料館、三菱重工業長崎造船所香焼工場を取材した。この工場は昭和47年に完成し、社員800人、協力社員1600人が働いており現在までに300隻の船を造ってきた。船はブロックという大きな鉄の塊を組み立てて作られる。鉄の板をそれぞれの具材に切り分けるところはコンピューター制御で行われている。しかし、鉄板の表面処理やブロックの組み立てなどの作業は一つ間違えると船の強度に関わるので人の手でされる。そうしていろいろな職種の人々が船づくりに携わり、設計から完成までに2年8ヶ月の歳月がかかる。

～悲劇と教訓～

この三菱史料館は、昭和60年10月に開設した。昔は、三菱造船所の鋳物工場に併設の「木型場」として建設された最も古い建物だ。組み立てが完成した木型タービンの試運転を造船所内でしていたら、製鉄技術が未熟だったため、破裂して4つに飛び散った。そのうちの1つに一般人が下敷きになって死亡した。もう二度とこのような事故を起こさないために、教訓として破片を展示している。また、早急な原因究明が、技術の進歩につながった。また、負荷テストなどを行い、周辺住民の信頼を取り戻した。(S.M)



↑おりおん号

平和公園(平和祈念像)



↑平和祈念像

原子爆弾は、第二次世界大戦末期の1945年(昭和20年)8月9日午前11時02分に投下された。ここは有名な平和祈念像がある場所。右手は原爆を、左手は平和を、表情は追悼の意を表している。作者は長崎出身で有名な彫刻家であった北村西望氏。毎年8月9日には世界各地から人々が集まり、長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典が行われ、追悼の日となる。

平和公園には「平和の泉」が設置されており、その前の石碑には、「のどが乾いてたまりませんでした。水にはあぶらのようなものが一面に浮いていました。どうしても水が欲しくてとうとう油の浮いたまま飲みました。」と記されている。(K.H)



↑平和の泉

長崎原爆資料館



↑原爆資料館

この資料館には、被爆の惨状をはじめ、原爆が投下されるに至った経緯、および核兵器開発の歴史、平和希求などのストーリー性のある資料が展示されている。

原爆の恐ろしさは3つある。爆発の瞬間、まず、放射線が放出され、続いて猛烈な熱線と爆風が町を襲った。放射線は、中性子線などが人体に入り細胞を破壊し、大勢の人たちを死亡させた。また生き残った人たちも白内障や白血病、甲状腺がんをはじめ各種がんなどの病気で苦しめられている。熱線は原爆が爆発した真下の地上で3,000～4,000℃の高温で、建物や樹木を黒焦げにし、人体に火傷を負わせた。爆風によって人々は吹き飛ばされ、散弾のような無数のガラスや木片が身体に食い込み、多くの人が亡くなった。(K.H)



↑溶けたガラス瓶

世界に向けて平和・共存を推進

編集後記：新聞部は、全国高校新聞紙面審査で奨励賞をとることが出来ました。これも、取材させていただいた生徒の皆さんや地域の皆さんのおかげです。全国大会へ行かせていただき、色々なことを学ぶことができたので、とても勉強になったし、いい思い出になりました。本当にありがとうございました。これからもがんばります。(S.M)